・西南学院大学・
図書館報

No. 30
1966年3月11日発行
福岡市西新町
西南学院大学図書館

(図書館全景)

新入学生はいかなる本をよむべきか

各教授に聞く

■ キリスト教学　八田 正光 講師

新入生諸君のうちで、聖書を初めて手にし、読む学生が殆んどであろう。聖書がわれわれの住む社会に、文化・文明に、いろいろな面で影響を与えて今日にいたっていることは云うまでもない。勿論、聖書の価値は、それだけではないが。諸君の真理探求と云う大学生生活において、聖書は必読の書である。一年次の基督教学においては、聖書概論を学ぶことになるが、兎に角、授業と並行して聖書を読んでいただきたい。詳しくは、シラバス（講義要目）に参考書を挙げているので参照されたい。

加藤常昭著「聖書の読み方」は、141頁の小冊子で聖書の読み方について懇切丁寧に記されたものである。大部な旧約聖書を読み通すことは、確かに容易なことではない。そのために、興梠正敏著「旧約各書の読み方」は、良い指導書である。

次に、本学神学部、中村和夫助教授訳のJ・A・トムプソン著「新約聖書の考古学」は、新約聖書の背景を知るのに良い参考書である。

次に聖書理解のために、少し難解かとも思われるが、次の書を紹介しよう。

◉C・H・ドッド著「聖書　その今日における意義」　◉C・S・ルイス著「奇跡」　◉三谷隆正著「信仰の論理」（三谷隆正全集第一巻）　◉A・F・ブライアント著「宗教的信念」　古典的なものとして、パスカル著「冥想録」を薦めたい。

■ 地　学　唐木田 芳文 教授

教養課程は、新制大学において、最近ますますその重要性が叫ばれている。今日の大学の理想は、真理の探求・職業教育・人間形成の三者が一体となってすすむことであろう。教養とは、自分達が祖先から受け継いだ文化的科学的遺産に接して、自分自身の人間性を豊かにし、また、そこから学問の方法を学び、物の見方・考え方を身につけることである。そして、社会人となって直面する困難な問題を自らの考えで正しく解決できる能力をもった人間を作ることである。

地学は、地球の歴史の学問であり、過去の地球に起った事件が、偶発的なものではなく、歴史的な法則性をもって必然的に現われたものであり、地球が将来も変化発展していくことを教えてくれる。これから、人類の哲学および科学思想が強い影響をうけていることは歴史のなかに明かである。また、自分達が幼い頃から抱いていたかずかずの謎を解き明かし、人間に有用な天然資源の開発に道筋を示してくれるのも地学である。

このようにして、教養課程の地学の勉強に当っては、我々の祖先が真実を求めて如何に苦斗してきたか、自然を支配する地学的法則とは何か、それは如何にして認識されるか、　(次頁上段へ)

— 前頁より —

特集

新入生はいかなる本をよむべきか

→ ということを学びとるように心掛けていただきたい。この観点から地学入門書を選んだ。

小林英夫・岡邦雄、地学史; 毛沢東、実践論・矛盾論（国民文庫）; 井尻正二、科学論; 徳田御稔、進化論（岩波新書）; 井尻正二・湊正雄、地球の歴史（岩波新書）; 竹内均・都城秋穂、地球の歴史（NHKブック）; J. ギルリィ・A.C. ウォーターズ・A.O. ウッドフォード、地学Ⅰ・Ⅱ; 畑中武夫、宇宙と星。

■ 経　済　学

高木 真助 教授

1、高木真助、教養経済学

自分の本を真先に挙げるのも変な話であるが、他人の著書の方が優れているのなら、何もわざわざ著述する必要はないわけであって、出版する以上、少くとも自分では、自分の本が一番いいと信じているわけであるから、どうしても劈頭に掲げざるをえない。教養課程の経済学として知っておくべきことは 108頁の中に全部網羅したつもり。ただあまり圧縮し過ぎたので、判り難い人は次の諸書を繙読して欲しいと思う。

2、山田雄三、高橋長太郎、山田勇、小泉明、小島清、現代の経済原論

3、千種義人、経済学入門

以上の諸書で経済学の概念を摑み、更らに進んで研究したいという人には、次の二書がいい。

4、高田保馬、経済学講義

5、Samuelson, Economics.

資本主義対社会主義という制度問題に関心の深い諸君にはストレチーやシュンペーターのものがいい。

6、ストレチー、関嘉彦・三宅正也訳、現代の資本主義

7、シュンペーター、中山伊知郎・東畑精一訳、資本主義・社会主義・民主々義

日本経済の現状分析としては、下記の二つが優れている。

8、市村真一、世界のなかの日本経済（中公新書）

9、大来佐武郎、先進国の条件—日本に求められるもの（日経新書）

■ 英　　語

大森 衛 助教授

学部を問わず新一年次生に共通の英語学習の指針をということだが、どの本とどの本を読めば英語学習は万事完了というような、いわゆる「英語に強くなる本」というものはありえないということをまず銘記すべきであろう。ただ言えることは、本来は音声にはじまる言語をそれを記録するための方便でしかない文字を通してのみ修得しようとする傾向が今日まで支配的であったし、それゆえに無用の労力と時間を必要とすることにもなりがちだったのを、現在は耳馴らし、口馴らしの訓練に絶好な文明の利器が、例えばラジオ、テレビ、レコード、テープ・レコーダーなど、いろいろと発達してきたので、これらを活用すれば大いに能率があがり、英語学習のための労力と時間をかなり大幅に節減することが可能だということである。

この点では本学は多くの外人の先生がたに恵まれているので、つとめて接触を多くするように、そして生きた英語を聞き話すように努力するが良いと思う。あわせて本学が誇る語学ラボラトリーの設備も許される範囲で活用するようおすすめしたい。

数年前諸君がはじめて英語に接して以来、大半の授業がいわゆる精読式であったことと思うし、また大学でもその点ではそれほど違いはしないことに早晩気づかれることであろう。一回の授業に10頁、20頁と進むような授業は、あったとしてもまず例外と考えて良い。したがって、このように教室で読む分量の少なさから、英語学習とは適切な訳語を発見することだという誤った印象をえたり、自分でなにかの英語の本を選んで読もうとする場合でも、訳語をあてないと気がすまなくなったりすることにもなる。

このような学習法では読みすすむスピードが当然増さないし、あれやこれやの理由も加わって、英語を読む楽しさをなかなか味わえないことになる。また事実、精読ばかりを試みていては実社会での物の役にも立ちかねる。 （次頁下段へ）

福岡県大学図書館協議会

（協議会場）

本学で開催

昭和40年度の福岡県大学図書館協議会・研究総会が、さる2月22日（火）、県下の大学図書館23館・出席者約50名を集めて本学の第五会議室で行われた。

この研究総会は、福岡県下の大学図書館が三つの地区※（北部地区・福岡地区・南部地区）にわかれてこの一年間に実施してきた図書館活動に関する研究の成果を報告し合うもので、九州大学を中心として県下のほとんどの大学がこれに参加しており、毎年着実な研究成果を収めてきている。

本年の各地区の研究テーマは、大学図書館の近代化に関するものが多く、従来の保存図書館から利用中心の図書館へと脱皮しつつある現状およびそれに伴うさまざまな問題点の分析がとり上げられていた。

例えば、福岡地区では、図書館の利用分析、閲覧方法・貸出方法の検討、レファレンス・サービスなどが研究テーマとされ、多くの利用者に、いかにしてより有効に図書館を利用させるかについて、詳細な検討の成果が報告されたのである。

本学の図書館はすでに昭和29年から、ほとんど全面的な開架制度を採用し、閲覧室も主題別に分けるなど、利用者の徹底的な便宜をはかってきたのであるが、最近、多くの大学図書館でも開架制度が採用され、積極的な利用の推進がなされるとともに、この方面での研究討議が活発に行われ出したことは、私共に与えられたこの上ない反省と改善への機会であり、この研究総会も極めて有意義な一日であった。

卒業生の利用手続

本学卒業生は、一定の手続きを経て、図書館を利用することができます。次の手続きに従って研究・調査・教養向上などに大いに利用してください。

① 利用希望者は、特別利用者規則の定めるところに従って、次に掲げるものを提出しなければなりません。
特別利用許可願1通、卒業証明書または勤務先証明書その他本人の身分を証明するに足る書類1通、上半身名刺型写真1葉、その他館長の必要と認める書類、手続料金100円

② 手続きを完了した者には特別利用者証（1カ月間有効）が交付されます。

③ その他は学生利用規則が準用されますから、在学中の手続きと変りません。

（前頁より）

（これは、もちろん精読を要求されている教室での学習も速読ですませと言っているのでは決してない。教室での精読と自学自習時の速読とを併用せよということである。）そのために例えば丸善などで販売している、東西の古典をいくつかの段階のやさしい英語に書きなおした本、いわゆる ladder edition の本を求めて読むことをすすめたい。そのような本の程度をだんだん高めて行けば、直読直解の力もつくし、読書のスピードも増すし、英語を読むこと自体の楽しさも十分味わえることになろう。諸君の必要とする第一はこの英語を読む楽しさの発見ではなかろうか。この発見が英語学習に関連する多くの問題を解決するように思われる。

最後に諸君が大学入学を機会に英英辞書を使用なさることをおすすめして結びとする。

紹介 この一年間に新しく備え付けた雑誌・新聞名

○ 購入(和)

国文学 解釈と鑑賞 (月刊)
生産性 〃
経理実務 〃
私法 (年刊)
(バック共No.18～26 昭32～39)
法社会学 〃
(バック共No.4～17 昭28～40)
時の法令 (旬刊)
(バック共No.1～532 昭25～40)
比較法研究 (年刊)
(バック共No.7～25 昭28～39)
経営法学ジャーナル (月刊)
季刊労働法 (季刊)
アジア経済 (月刊)
貿易と関税 〃
経済変動観測月報 〃
社会保障研究 (季刊)
労働と経営 〃
ファイナンス (月刊)
演劇界 〃
文芸 〃
雑誌記事索引(科学技術篇) 〃
経済 〃
本の手帖 〃
大公報(新聞) (日刊)

○ 購入(洋)

Bulletin of Mathematical Statistics (半年刊)
Mineralogical Abstracts (季刊)
Journal of Petrology 〃
Geological Society of America Bulletin (月刊)
Comparative Literature (季刊)
English Studies (隔月刊)
The Journal of Finance (季刊)
Business History Review 〃
American Journal of International Law 〃
Monthly Bulletin of Statistics (月刊)

○ バックナンバー購入

日本英学新誌(月刊)	1～10巻	明26～34年
法曹時報 〃	1～16〃	昭24～39年
国際法外交雑誌(隔月刊)	45～62〃	〃21～39年
一橋論叢(月刊)	1～38〃	〃13～32年
法学研究 〃	24～34〃	〃26～36年
法と経済 〃	1～110号	〃 9～24年
法学(季刊)	1～15巻	〃 7～26年
法学論叢(月刊)	1～57〃	大8～昭26年
法学新報(月刊)	25～70巻	大4～昭38年
綜合法学 〃	1～71号	昭33～39年
統計 〃	5～13号、1～16巻	〃25～40年
統計月報 〃	1～135号	〃22～36年
労働力調査報告 〃	1～56号、28～40巻	〃28～40年
通商彙纂(週刊)	1～70号	明43～44年
法律新聞(日刊)	1～4918号	明33～昭19年

○ 寄贈

週刊朝日(週刊) 海事史研究(季刊) 中外画報(月刊) Nations Business (月刊) vol.52No.1～11 1964

告知板

○ **新入学生の利用開始** 新入学生に対する図書館のオリエンテーション終了後から図書館を利用することができます。

○ **ロッカーの増設** 玄関においてある学生用ロッカーを新年度から大巾にふやしましたのでご利用ください。

○ **波多野文庫の移動** 従来閉架書庫の中においてあった波多野文庫を、1月から英仏閲覧室に移動しました。

○ **卒論特別貸出** 卒業年次の学生は卒業論文作成のための特別貸出を受けることができます。通常の貸出のほかに、3冊1カ月間です。指導教授の証明が必要です。希望者は係まで。

○ **春休長期貸出の返却期限** 4月18日(月)まで。

▶ 図書寄贈者

○ 大村匡 教授 「簿記概説」 (同教授著)
○ 高木真助 教授 「教養経済学」 (同教授著)
○ 古賀武夫教授 「徳川時代における人間尊重の系譜」

▶ 会議

○ 図書館委員会

40. 12. 16 図書館視察委員の実地視察の件報告
図書館関係諸規則の一部改正案審議
41. 2. 12 41年度図書館行事予定報告
図書館関係諸規則の一部改正案継続審議

■ あとがき

ご覧のようにトップの標題は発刊30号を記念して新しいデザインを採り入れました。これは、今度卒業する本学の四年生中崎正行君(美術部)の考案になるもので、一寸こったデザインです。同君の弁をかりると、「私なりに、親しめる図書館報を表わすよう工夫しました。」との由。とすれば、それに伴って内容もぐんと親しめるものを多くと考えています。ご愛読ください。(Y)